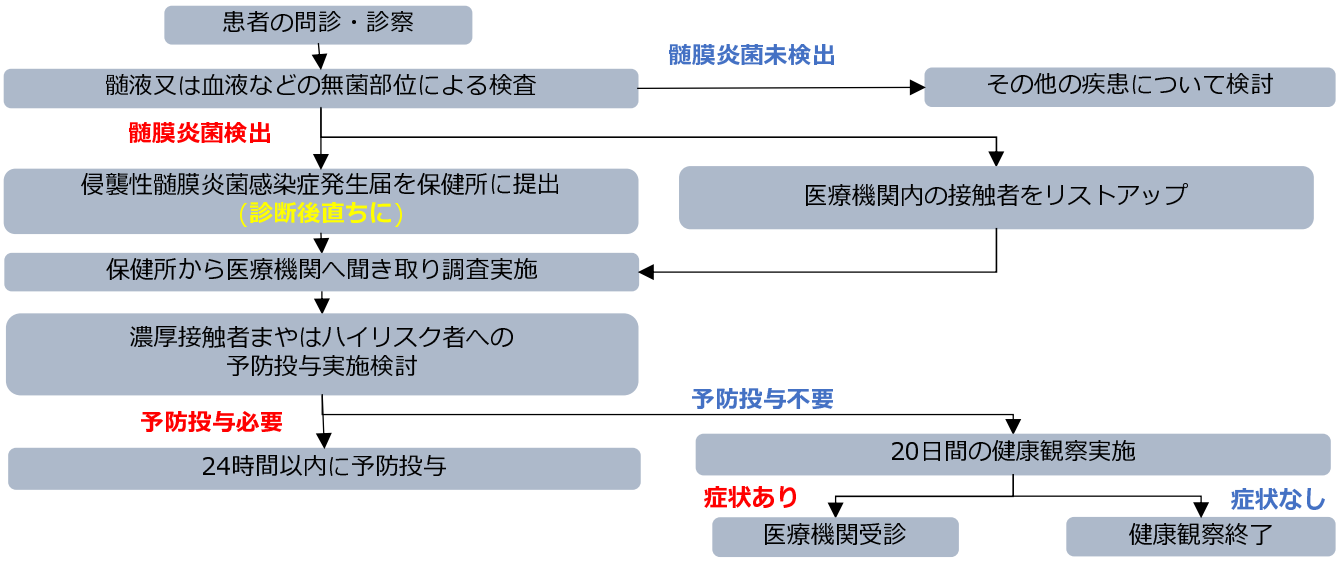
R7.3月　奈良県郡山保健所作成

侵襲性髄膜炎菌感染症

5類感染症

医療機関の対応の流れ



★不明点がある場合は保健所へご相談ください。

届出

・検査による診断後に診断した医師より発生届提出**（診断後直ちに）**

医療機関が問診・診察時に確認する情報

・発病、受診、診断までの症状の推移
・診断の根拠（特に検査所見）
・現在の症状(発熱、頭痛、発疹、嘔気、項部硬直、体幹や下肢の出血斑、粘膜や皮膚の点状出血、痙攣、意識障害、ショック症状)
・患者について（入院前の居所、同居者の有無など）
・患者の状態(会話が可能かどうか、基礎疾患の有無など)
・院内の感染対策
・保健所から本人または家族に連絡することの承諾の有無
・菌株の確保状況
・感染源情報（直近の髄膜炎菌流行国、地域への渡航歴・マスギャザリング※への参加の有無等）

潜伏期間：2～10日（平均4日）

※マスギャザリング：一定期間、限定された地域・場所に同じ目的で多くの人が集まること
（大型イベントや部活動、スポーツ大会など）

接触者の健康診断*

	濃厚接触者	発症リスクが高い者（ハイリスク者）	その他の接触者
接触の程度（例） ※他者へ感染させる期間=患者の症状出現7日前～有効な治療終了後24時間）	●衣食住を共にするような濃厚接触をした者 ●患者が幼少児の場合には特に濃厚な接触でなくても同じユニットにいた者 ●医療従事者で、適切な感染防護具を使用せず咽頭分泌物に直接曝露した者 ●その他:mouth-to-mouth蘇生を行った者、飛行機内で8時間以上患者の隣席だった者等	●補体欠損症 ●エクリズマブ等の免疫抑制剤使用中の補体機能低下者 ●無脾症（脾機能不全含む） ●免疫不全者	●同じ学校や職場等だが患者の唾液と直接接触していない者 ●患者の唾液と直接接触のない医療従事者 ●8時間以上のフライトで同便に搭乗した者（一部）
健康観察	担当者が毎日連絡するなど、厳重な健康観察を推奨	担当者が毎日連絡するなど、厳重な健康観察を推奨	各自で健康観察を実施、症状を認めた場合はすぐ担当者へ連絡をもらう
抗菌薬予防投与	推奨※	推奨※	不要
緊急ワクチン接種	推奨※	推奨※	推奨

※エビデンスとしては高くないものの、より強く推奨される

*出典：国立感染症研究センター　侵襲性髄膜炎菌感染症発生時ガイドライン[第一版] 2022年3月31日